

# 女子サッカーの普及・発展に関する研究 —女子サッカーの歴史的分析を通して—

## A Study on Spread of Women's Soccer —Through the Historical Analysis of Women's Soccer—

1K03B086-3

小林 恵

指導教員

主査 友添秀則先生

副査 吉永武史先生

### 1. 本研究の動機

サッカーは今や世界的に知られ、人気のあるスポーツである。しかし、女子サッカーはそれほど広まっていない。私は、小学校4年生のときから千葉県において女子サッカーをしている。私が小学生の頃、女子サッカーをする人はほとんどいなかった。女子サッカーの人口は増加するが、その数はわずかであった。サッカーを好きな女性は多いのに、なぜ実際に行う人がそれほどいないのか疑問に感じた。

私がドイツ連邦共和国(以下、「ドイツ」と略す)に留学していたとき、世界チャンピオンのドイツの国民でさえ、女子サッカーを知らない人がいたことに衝撃を受けた。どうして、女子サッカーになるとこれほどまでに人々の認知度・関心が低いのか疑問を抱いた。

現在、私は千葉県リーグに参加しプレーしているが、女子サッカーが男子サッカーほど知られておらず、試合なども満足のいった環境で行っていない。女子サッカーをより広めていくためにはどうしたらよいか、その策を講じるためにも、これまで女子サッカーがどのように行われてきたのか明らかにしたいという思いから、本研究のテーマに設定した。

### 2. 本研究の目的

女子サッカーの歴史的経緯を明らかにし、今後、特に千葉県における女子サッカーを普及・発展するために方策を検討する。

### 3. 本研究の方法

女子サッカーの歴史に関する文献や資料および雑誌・新聞や関連ホームページを参考・講読して行う文献研究とする。前千葉県サッカー協会女子委員会会長の佐々木氏にインタビューをし、サッカー協会の資料と共に、考察していく。

### 4. 各章の概要

<第1章>サッカーは「男性のスポーツ」として捉えられていた。現代的な女子サッカーはイングランドで始まった。女性の社会進出と共に、女性の権利が獲得され、女性がスポーツすることを認められるようになるが、女子サッカーは不当な扱いを受け、女性によるグラウンドの使用が禁止される。女性に対する風潮が変わり始めると、女子サッカーは再び盛り返す。女子サッカー協会が設立され、徐々にプロ化が進み、

ワールドカップやオリンピックでも行われるようになる。現在、世界の多くの国に女子リーグが存在する。

<第2章>第1章をうけ、わが国ではどのように女子サッカーが行われてきたのか考察。学校体育の枠で考えられていた部活動が近年、社会体育へと変わりつつある。女子サッカーはクラブを中心に発展してきた。競技として行う女性が増加し、全国各地でチームが結成され、地域ごとの大会が行われるようになり、大会をおう毎に試合時間や人数などのルールが変化し、国際基準を意識し始める。日本を代表する日本女子サッカーリーグが設立され、メディアに取り上げられるようになり、女子サッカーが普及していく過程が明らかになった。

<第3章>第2章をうけ、私の所属する千葉県女子サッカーではどのように女子サッカーが行われ、発展してきたのか考察。千葉県の女子サッカーは昭和51年に設立された「習志野フラワーズ」に始まり、少しずつ普及・発展し、女子委員会設立に至る。年齢層ごとの大会が多く開催されているが、他都県に比べ、登録チーム・選手数は少ない。男子選手の数との差はとても大きい。千葉県の女子サッカーの特徴は、ママさんを中心に発展してきたことである。関東地区で千葉県のチームは上位を占めていた。千葉県の高等学校で女子サッカー部を持ち、県リーグに参入するチームが近年、急激に増加している。ジェフユナイテッド市原・千葉レディースが千葉県内において女子サッカーの発展、強化に取り組んでいる点に注目した。

<第4章>千葉県における女子サッカーの問題を明らかにし、その提言を述べる。問題点として、中学生の受け皿がないことと、少女から一般、シニアまで一貫したクラブチームがまだ存在しないことが挙げられる。千葉県において、提言として、①中学・高等学校年代の普及、②クラブチームでの普及、③千葉県女子サッカーリーグの充実の3点があげられた。

<結章>本研究のまとめと課題を述べる。第1章から第4章までの内容を踏まえ、千葉県のみならず、日本国内においても女子サッカーが今後、普及し発展していくためには、ひとつのクラブチームに少女からシニアまで一貫性があるような形態が望ましいのではないかと考える。